村内発生件数は減少したが……
村内居住者による事故は県下ワースト3位

いぜん減らぬ交通事故
交通ルールとマナーの欠如が問われている

県下における交通事故状況は、平成元年に次ぐ多発となり、昭和61年以降一万件を超えています。

一方、村内で発生した事故件数は53件（前年比17件減）死亡者数1名（前年比3名減）傷病者数65名（前年比25名減）となったものの村内居住者による事故は、前年より12件多い67件が発生し、県下ワースト3位と依然として厳しい状況下にあります。

ところで、道路網の整備が進み、免許保有人口の増加と車台数の増加に加え、高性能の車社会における若者の暴走による事故の増加と、高齢化社会にあって高齢者に係る交通事故が激増している今日、交通ルールとマナーの欠如が問われています。

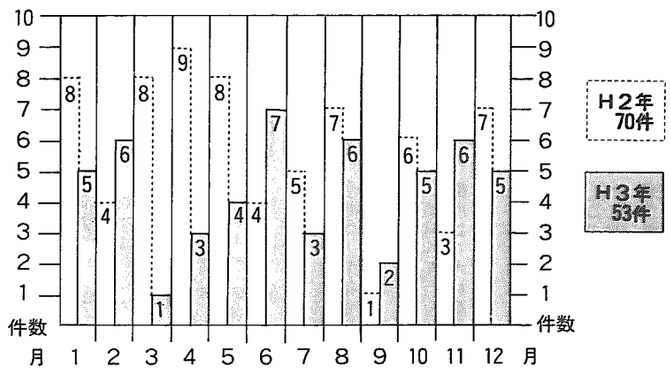
村では、交通事故の撲滅に向け、昨年、街頭指導、広報活動、パンフレットの配布、チラシによる啓発、交通安全指導車による啓発活動等一年間活動を展開してきました。

今年も昨年度にも増して関係各機関、団体と連携を取りながら、交通事故撲滅を目標に、家庭、地域、職場における交通マナーの向上、指導強化を図っていきます。

併せて、広報活動、交通安全教育の推進を図る一方、安全施設の整備、点検、拡充を図っていきますので住民の皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

(1) 村内で発生した事故の状況

月別事故発生件数



月別では2月、6月、8月、11月が発生件数が多い

(2) 村内居住者（第一当事者）事故発生状況

1. 事故発生場所別状況

発生場所	件数	比率%
新潟市	28	41.8
横越村	**18**	**26.8**
亀田町	15	22.4
新津市	1	1.5
加茂市	1	1.5
五泉市	1	1.5
白根市	1	1.5
水原町	1	1.5
西川町	1	1.5
計	67	100

2. 特定事故発生状況

特定事故	件数	比率%
飲酒事故	4	6.0
スピード事故	2	3.0
こども事故	3	4.5
高齢者事故	13	19.4
歩行者事故	3	4.5
自転車事故	9	13.4
高校生事故	6	9.0
二輪車事故	12	17.9
姓ドライバー事故	16	23.9
若者事故	17	25.4

3. 居住者別　県下ワースト10位

順位	全事故人口比率
1	下田村
2	月潟村
3	**横越村**
4	中ノ口村
5	笹神村
6	津川町
7	三条市
8	新潟市
9	栄町
10	亀田町

救急車出動状況

◆3月の出動件数　16(130)

主な出動原因
- 交通事故　6 (46)
- 一般負傷　3 (25)
- 急病　7 (59)

（ ）は4月以降の累計

納期までに忘れずに納めましょう

5月の納税等

国民年金保険料　2期（5月分）

下水道受益者負担金　1期

「なんでも相談」のご利用を

5月20日(水)

午前9時～午後4時

役場村長室

ご厚志に感謝

過日逝去されたご遺族の丸山二一さんより三万円・野瀬山幸三郎さんより十万円、それぞれ福祉事業にと寄附がありました。

村では、ご遺族の意志に基ずき村社会福祉協議会に伝達致しました。

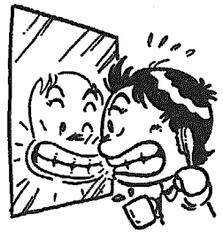
税金で　豊かなくらしを　いつまでも　（二本木・藤崎三津子）

健康シリーズ②

むしばまれている こどもたちの歯
～永久歯があぶない～

成人・老人になった時の健康は、子ども時代からの健康管理のあり方が大きな影響を与えます。そこで、健康管理の一つである食を支える歯について考えていただくため、歯に関する特集を組みました。

先月号でお知らせしたように、横越村は**子どものむし歯**が多い村です。1才6か月で15%・3才で70%の子どもがむし歯という病気に冒されています。保育園児や小・中学生の実態はどうでしょうか。



〈保育園児の歯科検診〉　乳歯について実施します。昭和63年度以降、一人平均むし歯本数は8本前後の横ばい状態ですが、罹患率はわずかながらも減少の兆しを見せています。しかし、県内保育園平均と比較すると、罹患率・むし歯本数ともに大きく上回った状態にあります。特に一人平均むし歯本数は、県59本に比し、村78本と2本も多い状況にあります。園児の中には、1人で10数本もむし歯を持っている子も何人かいます。乳歯であっても治療しておくことが大切ですが50%しか治療がされていません。その理由には、

①子どもが歯医者に行きたがらないので受診しない
②治療終了後に新たにむし歯ができた
③受診したが泣いて治療できずにあきらめた

等があります。

〈小・中学生の歯科検診〉
主に永久歯について実施します。小・中学生とも罹患率・一人平均むし歯本数は減少傾向をみせていますが、やはり県平均でみると大きく上回った状態にあります。**むし歯は治療するものという観念は定着**しており、治療率については県平均並みですが、むし歯にならないための**予防**（はみがき・間食を含む食生活・定期検診、受診など）は、まだ不十分な状態にあるのではないでしょうか。特に小・中学生時代は永久歯との交換期にあり、かつ、むし歯発病の危険度が非常に高い時期にあるのですが、口の中の清潔管理（はみがき、食事等）は子ども自身にまかされている場合が多く保護者や家族も幼児期に比較して気配りが少なくなってはいないでしょうか。

永久歯を守るのは乳歯時代からです

通常の統計は、ある年令になった人たちの状況を調べるので、毎年対象者が違っていきます。ここでは、同一対象者を追跡し、どのように変化していくかを調べてみました。

昭和59年度生まれの子どもが1才6か月の時から小学一年生までの変化を図3図4に示しました。これをみると、わずか1～2年の間に2～3本もむし歯が増え、保育園卒園時には、一人平均しても乳歯の半分がむし歯になってしまっています。

保育園年中組（4才）くらいになると、早い子どもでは第一大臼歯（一生はえかわらない大切な奥歯）が生えてきます。このように、どんどんむし歯が増えていくような口腔内環境の悪い所に生えてくるので、小学一年生ですでにむし歯になっている子どもが18%もいます。このことから小・中学生だけでなく、永久歯のことを考え、守っていくのは保育園年少組（3才）からやっていかなければならないのではないでしょうか。

たかが子どもの歯・生えかわるじゃないかと思う方もおられると思います。しかし、その歯でつらい思いをした方が多いのではないでしょうか。永久歯を守るのは乳歯時代からです。やはり、幼児期だけでなく小・中学生になっても、保護者及び家族・そして地域全体で考えていかなければならないのではないでしょうか。

―次回は、子どもたちの食生活について―

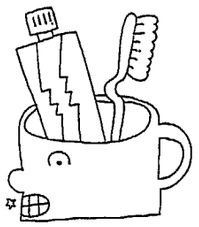


図1　保育園児・学童の「むし歯」のある人の推移

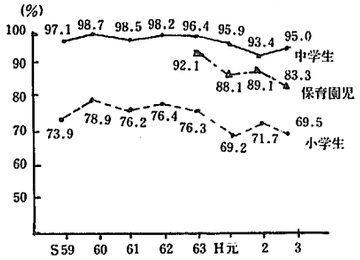


図2　昭和59年度生まれの子供たちの1人平均「むし歯本数」の推移

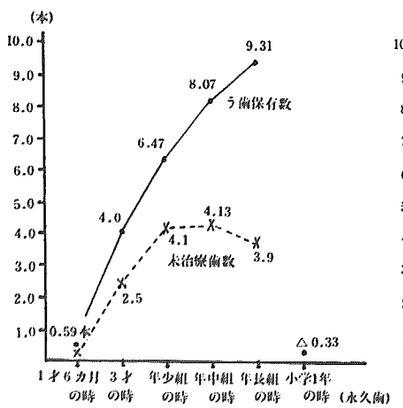


図3　昭和59年度生まれの子供たちの「むし歯罹患率」の推移

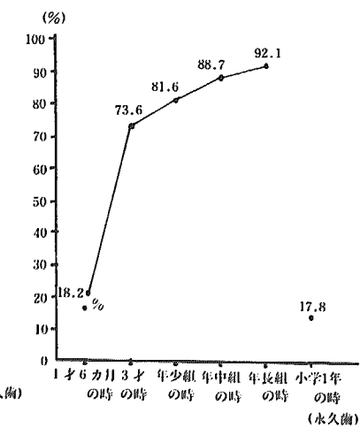
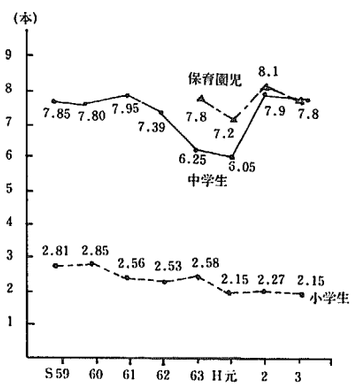



図4　保育園児・学童の「1人平均むし歯の本数」